

森林管理署長等が語る！

令和5年12月

埼玉森林管理事務所長 小澤伸浩

1 はじめに

埼玉県の森林は県土面積の31%を占めており、その大半はJR八高線以西となります。国有林が所在する位置的關係は、大別して奥秩父地域、秩父地域及び都幾川・毛呂山地域の3地域に大別され、埼玉県森林面積の約10%の12千haを管理経営しています。

- 奥秩父地域の国有林は、秩父市の西部に位置し、日本百名山に数えられている雲取山、甲武信ヶ岳、三国山等を含む2,000m級の山々が多数連なる秩父山地の北東側にあります。地形が急峻で、天然林が96%を占め全域が秩父多摩甲斐国立公園特別地域に指定されており、首都圏の水源である荒川の源流に位置し、水源涵養^{かんよう}・国土保全等公益的機能が極めて高い森林です。このため、秩父山地周辺は保護林や緑の回廊に設定し、自然環境を重視しております。
- 秩父地域の国有林は、秩父市の東部に位置し、天目山を含む秩父山地の北側斜面になります。標高は700～1600メートルで比較的高く、地形急峻で全域が武甲県立自然公園に指定されています。尾根筋の高齢天然林が残されている区域は自然環境を重視し管理を行っており、それ以外の区域は水源涵養機能の発揮を重視した管理経営を行っております。
- 都幾川・毛呂山地域の国有林は、関東平野西面の比企丘陵のうち、ときがわ町と毛呂山町に位置し、小団地的に点在し標高は低く、スギ・ヒノキの人工林がまとまった地域です。分収造林地も多く設置されており地域振興に寄与しています。また、全域が黒山県立公園に指定されています。

2 主な取組事項

主な業務としては、森林整備事業、治山事業、林道事業等となりますが、ここでは今年度の特徴的な取組について紹介させていただきます。

(1) 天目山（天目山）林道（川俣橋）改良工事

局管内でも橋梁架け替え工事の事例は少ないと思いますので紹介いたします。天目山林道が浦山川を渡河する川俣橋（昭和31年架設）の老朽化に伴い、橋梁の架け替え工事を令和3年度から実施しています。本工事の川俣橋が渡河する浦山川は、埼玉県管理の河川であり、秩父漁協組合の漁業権が設定されています。また川俣橋周辺は急峻な地形でもあり、川床から路面高まで約11mになります。



(旧 川俣橋)



(新 川俣橋)

本工事については、令和2年度に実施設計、令和3年度に護岸工事、令和4年度に仮栈橋・橋台工事を実施してきました。今年度の新橋に係る舗装工が完了し10月から通行が可能となったところです。まだ旧橋と仮栈橋の撤去工事、そして来年度は迂回道路の撤去工事などが残っておりますが、工事完了に向けて取り組んでいます。

(2) 民国連携の取組

秩父地域の1市4町（秩父市、横瀬町、小鹿野町、長瀬町、皆野町）は、地域の森林の有効活用を通じ健全な森林の育成と循環型社会の構築や地域経済を発展させることを目的に「秩父地域森林林業活性化協議会」を設置しています。



(木が香るフェスティバル)

当所においても、この協議会に参画し、イベントの共同開催や各種事業を積極的に支援し、地域振興のために民国一体となって取り組んでいるところです。

また、同協議会は、平成31年4月から森林経営管理制度の開始と同時に集約化分科会を設置して森林環境譲与税活動推進事業及び集約化推進事業に取り組んでいます。当所は、秩父市からの要望に応じ、森林経営計画の作成に係る技術習得等、現地へ同行し実践的に支援等を行っています。主な内容は、ドローン操作方法の説明・操作体験、間伐の標準地調査方法の説明、参加市町村担当者と国有林職員の選木の相違の比較・意見交換、OWLを活用した林況調査の勉強会等、国有林の技術を活かした支援に取り組んでいるところです。



間伐における標準地調査方法の検討

その他にも、当所で実施したシカ柵の被害を軽減する設置方法を地域の林業関係団体へ紹介し、今後の課題等について意見交換を行う等情報共有を図っています。



現地検討会の概要を聞く参加者



シカ柵の状況を確認する参加者

(3) 森林教室等による森林・林業のPR

当所では、森林の働きや森林整備の必要性を理解し森林にもっと関心を持っていただくため、毎年、ときがわ町内の小学生を対象に森林教室を開催しています。今年度は、萩ヶ丘小学校4・5・6年生の児童25名を対象に、森林のはたらき等についての話しや校舎から出て前庭で火起こし体験を行いました。児童達からは、「森林の役割等初めて知ったことが多くて驚いた」、「これから森林についていろいろ調べてみたい」、「シカは木の皮をむいてしまうことが分かった。苗木を守るためにネットを張っていることも分かった」といった感想の手紙をいただきました。近年、幼児期からの森や自然を活用した森林環境教育への関心が高まっています。当所としましても、次代を担う子供たちに森林の役割や自然環境に関心を持つきっかけになるよう、引き続き森林教室等を実施していく予定です。



森林教室の様子



火起こし体験の様子

3 秩父地域の紹介

ここからは、秩父地域の多様なお祭り・伝統行事を紹介します。秩父地域には、古来人々を楽しませてきたお祭り行事や民俗芸能が数多く残されています。1年を通じてどこかでお祭りが行われているというほど、お祭りの多い地域です。その中の代表的なお祭りを紹介します。

一つは、秩父市下吉田の棕神社の例大祭「^{りゅうせいさい}龍勢祭」です。同神社周辺で行われ、地元住民らで組織する流派の手作りロケット「秩父吉田の龍勢」（長さ約20メートル）が有名です。芦田山の秋空に、轟音とともに天高く白い煙の尾を引いて上空（約300メートル）に打ち上げられ、その姿は昇天する伝説の龍を思わせます。上空に到達するとロケットの先端に仕掛けた落花傘が開き下降します。龍勢祭は400年以上の歴史を誇り、現在は27の流派が伝統を受け継いでいます。毎年10月の第二日曜日に行われます。



龍勢祭(手作りロケットの打ち上げの様子)

二つ目は秩父神社の例大祭（秩父夜祭）です。京都の祇園祭、飛騨の高山祭とともに日本三大曳き山祭りに数えられ、毎年12月の2日と3日に行われます。300年の伝統を持つ冬の風物詩で、絢爛豪華な2台の笠鉾と4台の屋台が曳き廻されます。クライマックスに行われる最大10t以上もある笠鉾・屋台の団子坂引き上げは大迫力です。



秩父夜祭（笠鉾・屋台の曳行の様子）

その他、秩父夜祭と同様に300年以上の伝統を誇る「秩父川瀬祭り」、素裸に禪一丁わらじ履きの氏子が大樽に満たされた甘酒をかけあい疫病を退散させる「猪鼻の甘酒まつり」などの珍しいお祭りが開かれます。

また、伝統行事ではありませんが、今年で10回目の開催となった「秩父ウイスキー祭り」などもあります。ウイスキーの文化・楽しみを広げたいというコンセプトで集まった有志達によって、毎年秩父市内で開催されます。秩父蒸溜所で生まれた「イチローズモルト」（世界で最も権威のある英国の

ウイスキー品評会「ワールド・ウイスキー・アワード」で通算 6 回、世界最高賞を獲得したウイスキー)のほか国内外から 60 社程度が出展し、ウイスキーの飲み比べができるようです。次回は 2024 年 2 月に開催されるということです。前売り券を購入する必要がありますが、ウイスキー愛好家はぜひ味わって下さい。

秩父地域には、祭りだけでなく多くの観光スポットがありますので、皆様も観光に訪れて、秩父を楽しんでいただきたいと思います。

4 結び

近年、相次ぐ巨大台風や集中豪雨等による災害が各地で多く発生しています。また、シカやイノシシそしてクマによる被害は人間の生活圏内にも及んでおり、山村地域の森林へも被害をもたらしています。そのため、森林の多面的機能が発揮でき、多様な生物が共存できる森林を次世代に引き継いでいくことが課題となっており、以下について取り組む必要があると考えています。

(1) 秩父山地生物群集保護林を中心として平成 12 年に設定された緑の回廊においては、当時 NPO 法人「秩父の環境を考える会」と連携し原生林の現況踏査が行われ、ニホンシカ等の野生動物による樹皮の剥皮、下層飾性や枝葉の採食などが確認されました。その後、同団体やボランティア等の協力を経てシカ食害防止対策を講じてきました。今後においても、現況状況の把握を行い、緑の回廊としてはたらきを発揮するのにふさわしい森林を維持するため、適切な管理・保全に努めていきたいと考えています。その他の国有林野においてもニホンシカ等による被害の拡大が懸念されています。引き続き、有害鳥獣誘引捕獲事業を実施していくとともに、秩父地域鳥獣害対策協議会などの関係機関と連携し効果的な被害対策に努めていければと思っております。

(2) 令和 7 年に秩父ミュージアムパーク（秩父市・小鹿野町）において、全国植樹祭が開催される予定です。首都圏の主要な水源である荒川や優れた自然景観を有する秩父地域の森林などを広くアピールする良い機会です。林業・木材産業の成長産業化や地方創生に向けて、民有林関係者等と連携を図りながら、地域林業の活性化に貢献してまいりたいと思います。